

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リビオ桃園公園北街区 期	階数	地上8階建て
建設地	福岡県北九州市八幡東区桃園1丁目	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	225 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2011年12月21日
敷地面積	3,109 m ²	作成者	二方 則久
建築面積	1,245 m ²	確認日	
延床面積	7,056 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: A: B+: B: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 74%

上記+ 以外のオンサイト手法: 74%

上記+ オフサイト手法: 74%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他
戸建てエリアと集合住宅エリア及び大型公園を含む再開発計画による街並み整備を行い、街区全体での新たな環境創造を図る。集合住宅としては全戸南向き配置とし、十分な通風、採光を確保したゆとりある住戸計画を行った。	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 遮音サッシ(T-1)を採用し静かな室内環境とする。開口を十分に確保し、自然採光や換気に配慮した住戸計画とした。また空気環境に配慮した建築材料の採用を図る。	Q2 サービス性能 外壁の維持管理が容易な仕上を選定、屋内型ごみ置場の設置、及び清掃用具庫・管理倉庫の設置により維持管理機能に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の空地を確保することで周辺への圧迫を軽減、集合住宅エリアを街区北側に配置することで周辺への日照障害に配慮した。また街区全体で緑環境の創出を図っている。	LR1 エネルギー 全戸に潜熱回収型ガス給湯器を採用しエネルギーの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル 節水型便器の採用により水資源に配慮する。オール二重床、二重天井の採用や、GL工法の採用により部材の再利用可能性への取り組みを図っている。	LR3 敷地外環境 駐車場設置率を100%敷地内に確保、また全て平面駐車とすることで周辺交通への負荷が最小限となるよう配慮した。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい